

4月 図書館カレンダー
CALENDAR

1月	休館日
2	火
3	水
4	木
5	金
6	土
7	日
8月	休館日
9	火
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15月	休館日
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22月	休館日
23	火
24	水
25	木
26	金
27	土
28	日
29	月祝
30	火祝

折り紙建築作品展
2日から11日まで

新生活のスタートに
この1冊
21日まで

R本 テーマ別小説100連発!
- 中高生におすすめしたい本
16日から5月5日まで

セルフ貸出機が利用可能になりました

貸出カウンターで行っていた貸出の手続きを自分で行えるセルフ貸出機を設置しました。操作方法は簡単で、「本を借りる」を指でタッチし、利用者カードと本のバーコードを読み取ってから「かんりょう」ボタンを押すとレシートが印刷されます。貸出カウンターの混雑時などにぜひご利用ください。

展示「新生活のスタートにこの1冊」

4月21日まで
入学や進学、就職など、新たな一歩を踏み出す季節ですね。『あなたがひとりで生きていく時に知っておいてほしいこと』『ひとりぐらしレスキュー BOOK』『知的社会人1年目の本の読み方』など心機一転のスタートにおすすめの本を紹介します。

菟野藩の財政逼迫を支えた
土方数馬義法～馬公子さまのはなし～

菟野藩7代目藩主は相撲好きで、江戸大相撲を菟野に招くなどの派手な行事を催した結果、藩は財政難に陥りました。その危機を救ったのは“馬公子さま”こと土方数馬義法です。藩主を支えて藩の再建に尽くした一代記を展示しています。

新着図書から

『知っているのに思い出せない平成まとめクイズ』 一般書
BLOCKBUSTER/編
永岡書店 (210.7/シ)
平成の30年間に起きた主な出来事や話題になった人、ヒット商品、流行したものなどをシンプルなクイズとして出題しています。記憶力を頼りに平成30年を振り返ってみると、新たな発見があるかもしれません。

『文系?」「理系?」に迷ったら読む本』 ティーンズ
竹内薫/著
PHP研究所 (J002/タ)
大学入試制度は、2020年度から段階的に変わっていく予定となっていますが、「文系」「理系」という区分けはまだまだ残っています。文系と理系の両方に携わったことのある著者が、自身の経験を踏まえつつ、中高生が選択に迷った時のヒントを紹介しています。

『えらいこっちゃんのいちねんせい』 児童書
かさいまり/文
ゆーちみえこ/絵
アリス館 (E/ユ)
小学校に入学したばかりのほくは、やることも時間も決まっている学校生活に大忙しで、いつも「えらいこっちゃん」とつぶやいています。新入生の男の子の気持ちが丁寧に描かれており、入学前のお子さんにぴったりの一冊です。

郷土史・風俗

第61回 近藤謙蔵の事績
教育者としての謙蔵

謙蔵は慶応元年(1865)に菟野藩士である武脩の子として生まれました。明治15年に菟野学校の高等科を卒業し、同19年に三重県師範学校を卒業して菟野小学校に奉職しました。同39年に静岡県富士郡吉原町(現在は富士市)から招請を受け、吉原小学校校長に赴任して、その間に富士山や箱根を周り見聞を広めました。同42年には久居小学校校長に転任を命ぜられ3年間勤務した後、同45年に故郷の菟野小学校へ6年ぶりに帰任しました。

菟野小学校校長として大正11年に退職するまでの在職37年間に名物校長として県下教育界に名を高めました。退職後は、村会や区会議員などの公職に就き、菟野小学校の本館の新築や校舎の増築のほか、町立実践女学校の創立など、教育事業の推進に努めました。



近藤謙蔵

郷土史の研究

謙蔵は教師として在職中に、早くから郷土史研究を志しました。そして、自らが調査収集を行って知った郷土の歴史を分かりやすく生徒に説き、新しい歴史教育の道を開きました。さらに、大正5年には『菟野郷土史』を作り教材とし、由緒ある藩学校の伝統を継承している菟野小学校の『学校沿革誌』全3巻を残しました。大正11年に退職すると、ひたすら郷土史研究に打ち込み、町史編さん委員の委嘱を受けました。さらに歴史資料の収集を行って執筆に従事し、昭和16年には15年の歳月をかけて『菟野町史』を刊行しました。晩年は書齋で筆に親しむ日々を過ごし、昭和21年2月13日に五本松の自邸で大往生を遂げました。80年の生涯は学校教育と郷土研究に尽くした一生でした。

感じたことなど
自由気ままに
語ります!
町長の
ひとり語り

第1回 子ども医療費
無料化を考える

みなさんこんにちは。町長の柴田孝之です。広報こもの4月号から、町民のみなさんに私が思ったこと、感じたことをメッセージとしてお伝えしていこうと思っております。よろしくお願ひします。

さて、私は今、中学生の通院医療費が無料となる範囲を拡大しようと思っております。三重県の29市町のうち、中学生の通院医療費の無料化の範囲は菟野町が一番狭くなっています。この現状をまずは他の市町と同等の範囲まで改善しようと思っております。



ただそこで難しいのが、

どの程度の範囲まで拡大するのかという事です。町長に就任する前の2月のことですが、私が四日市警察署で献血のボランティア活動を手伝っていたときです。若いお母さんから中学校給食のほか、医療費の無料化についての考えを問われました。「医療費の無料化、所得制限をなくすおつもりですか?」「そのことも検討しています」「お金持ちにまで子どもの医療費を無料にする必要があるのでしょうか」

若いお母さんの言葉から余計に驚きましたが、このお母さんの考え方は、医療費の無料化が家庭の経済的負担を軽くするためにあるというものです。しかし、医療費の無料化は子どものためのものである、社会的な目的のものであるとも考えられます。こう考えると、医療費の無料化について、どの親の子どもであるかによって差を設けてはいけないことになりそうです。

どちらの考え方も間違いではありません。答えがないものについては、菟野町は「自」「治」体です。皆さんの思いに沿って決めていくことになりそうです。皆さんも一緒に考えていきたいと思います。